

社会医療法人愛生会

上飯田リハビリテーション病院



各科データ

各科診療実績 2015年1月～2015年12月データ

リハビリテーション病院

| 項目 | 件数 |
|-----------------|------|
| 新規入院患者数（再入院含めず） | 322 |
| 1日平均患者数 | 90.1 |
| 平均在院日数 | 70 |
| 在宅復帰率 | 88.8 |
| 入院時重症度割合（30%以上） | 38.7 |
| 退院時回復割合（30%以上） | 65.4 |
| 重症度 A 項目（10%以上） | 16.4 |

リハビリテーション科

| 項目 | 件数 |
|--------------------|------|
| 1療法士の平均実施単位 | 17.9 |
| 1患者平均リハビリテーション実施単位 | 6.67 |
| 装具作成件数 | 36 |
| 家庭訪問実施件数 | 103 |

通所リハビリテーション

| 利用実績 | 件数 |
|--------------|-----|
| 利用件数（1月平均） | |
| クイック（1～2時間） | 30 |
| オーダー（3～4時間） | 31 |
| ベーシック（6～8時間） | 59 |
| 利用延数（1月平均） | |
| クイック | 195 |
| オーダー | 191 |
| ベーシック | 441 |
| 介護度割合（%） | |
| 要介護 1 | 7 |
| 要介護 2 | 39 |
| 要介護 3 | 23 |
| 要介護 4 | 8 |
| 要介護 5 | 5 |
| 要支援 1 | 5 |
| 要支援 2 | 12 |

地域医療連携室

| 項目 | 件数 |
|-------------|-------|
| 新規入院相談総数 | 411 |
| 外来相談総数 | 5 |
| 入院相談 | 7 |
| 背景要因 | 70 |
| 適応 | 122 |
| 家族 | 1 |
| 職業・住居 | 2 |
| 経済 | 26 |
| 退院支援（転院・入所） | 178 |
| 在宅支援・維持 | 1 |
| その他 | 24 |
| 退院支援（在宅） | 570 |
| 相談延件数 | 1,001 |

栄養科

| 項目 | 件数 |
|----------------|--------|
| 一般食 | 48,037 |
| 特別食（加算） | 32,035 |
| 特別食（非加算） | 10,716 |
| 濃厚流動食 | 3,516 |
| 通所 | 5,244 |
| 職員食 | 9,885 |
| 入院食事指導 | 100 |
| 栄養サポートチーム回診患者数 | 104 |
| 栄養アセスメント件数 | 276 |
| 実習生受け入れ | 4 |

紹介患者数

| 紹介元医療機関名 | 件数 |
|---------------|-----|
| 総合上飯田第一病院 | 91 |
| 名古屋医療センター | 91 |
| 春日井市民病院 | 28 |
| 名古屋市立西部医療センター | 18 |
| 大隈病院 | 18 |
| 名古屋市立東部医療センター | 18 |
| 名古屋第二赤十字病院 | 4 |
| 名古屋大学附属病院 | 7 |
| 小牧市民病院 | 9 |
| その他の医療機関 | 38 |
| 累計 | 322 |

上飯田リハビリテーション病院

院長 金森 雅彦

➤ 特徴

回復期リハビリテーション病院として、入院時より退院後の生活を想定した対応を行っています。1日あたり最大で3時間の個別リハビリテーションの実施、看護師、介護福祉士などによるケアプランを通し、生活自体がリハビリテーションとなるように、医師をはじめ、リハビリテーションスタッフ、看護師、介護士、社会福祉士、管理栄養士、薬剤師、事務員など多職種協同で患者さんが希望する生活支援に向けて取り組んでいます。

➤ 2016年目標

患者さん・家族にとって安心して回復期のリハビリテーションに取り組んでいただけるように、急性期病院と生活期施設との連携強化に努めます。

生活期リハビリテーションの充実を図るため、通所リハ・訪問リハ・外来リハ機能の充実に努めます。

退院後の機能低下・能力低下に対して「リ・コンディショニング」を目的とした短期集中リハビリテーション入院プログラムの検討をします。

看護部

看護部長 新野 ひろ子

➤ 特徴

様々な職種の方と連携をとり協力しあいながら多角的に患者さまをサポートし、よりよい状態で社会・地域・在宅に、復帰できるよう最善の看護・介護の提供に努めております。

施設基準：回復期リハビリテーション病棟入院料 1

(看護師配置 13：1以上)

(看護補助配置 30：1以上)

看護：回復期リハビリテーション看護師認定コース合格者 2名

介護：アセッサー合格者 2名

➤ 2016年目標

基本方針

1. 患者のニーズに応じた、安全で安心な療養環境を提供する。
2. 看護・介護水準向上のため、自己啓発、相互啓発に努める。
3. 看護・介護職の専門性を自覚し、多職種との連携・チーム医療を推進する。

目 標

「安全で質の高い看護・介護を行う」

通所リハビリテーション

責任者（看護師長） 中島 智子

➤ 特徴

クイック・オーダーメイド・ベーシックと3コースから利用者さまのご希望に合わせて選択できる通所リハビリテーションです。

ご利用者さまやご家族が安心して在宅生活を送れるように、リハビリテーションスタッフにより必要なリハビリテーションを行い、心身機能の維持向上を図ります。また、看護師、介護福祉士・介護職員、管理栄養士、歯科衛生士により健康管理やケア、日常生活訓練などを行い在宅生活のサポートをしています。

➤2016年目標

その人らしい生活を送れるように、他職種や他事業所と連携を図りリハビリテーションを行います。

医師や専門職種により生活の中での相談や指導に努めます。

1月より全コースの送迎を対応することで、より多くの方に利用できる環境づくりに努めます。